

公園ストックの評価と再生 に向けた基礎的研究

元名古屋都市センター 調査課 研修員
川上 哲平

報告の内容

- 1 調査研究の背景・目的
- 2 ケーススタディ
「西区をモデルに既存データを用いた調査・分析」
(公園の位置、人口情報、立地適正化計画、保育施設、福祉施設)
(人流データを活用した公園の利用状況の把握)
- 3 ヒアリング調査
(子育て拠点、保育園(園庭有・無)、学童、いきいきセンター)
- 4 まとめ

報告の内容

1 調査研究の背景・目的

2 ケーススタディ

「西区をモデルに既存データを用いた調査・分析」

(公園の位置、人口情報、立地適正化計画、保育施設、福祉施設)

(人流データを活用した公園の利用状況の把握)

3 ヒアリング調査

(子育て拠点、保育園(園庭有・無)、学童、いきいきセンター)

4 まとめ

調査研究の背景

<背景>

- 本市には現在約1500か所の都市公園が存在しているが、開園から年数の経過した公園が増加し、施設の老朽化が進行している。
- 個々の公園施設については、長寿命化計画に基づき対策を実施しているが、まちの移り変わりや地域のニーズに対応するため、複数の施設を対象とした一体的な機能再編や出入口等のバリアフリー化等を含めた面的な再整備が求められている。
- 面的再整備は鶴舞公園、名城公園等の総合公園や、地域から要望が挙がった公園、課題が顕在化した公園などの一部の公園にとどまっており、全市的に計画立てて、より効果的な再整備を推進していく必要がある。
- 他自治体等における公園の再整備の優先度に関する研究や計画も存在するが、地域によって状況は異なり、考え方も様々。

調査研究の目的

公園の周辺環境や施設の状況について
整理するとともに、利用実態を把握



公園ごとの再整備の
優先度設定に向けた評価項目を検討



再生方針策定のための基礎資料とする

報告の内容

1 調査研究の背景・目的

2 ケーススタディ

「西区をモデルに既存データを用いた調査・分析」

(公園の位置、人口情報、立地適正化計画、保育施設、福祉施設)

(人流データを活用した公園の利用状況の把握)

3 ヒアリング調査

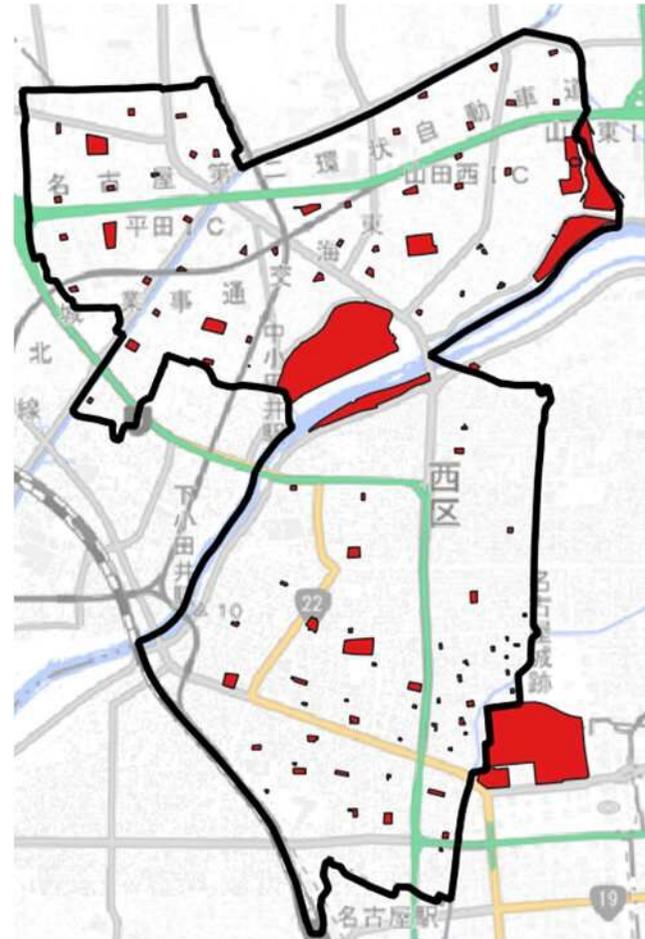
(子育て拠点、保育園(園庭有・無)、学童、いきいきセンター)

4 まとめ

調査研究の流れ

本研究では、名古屋市全域のうち、
西区をサンプルとして抽出し調査を行う

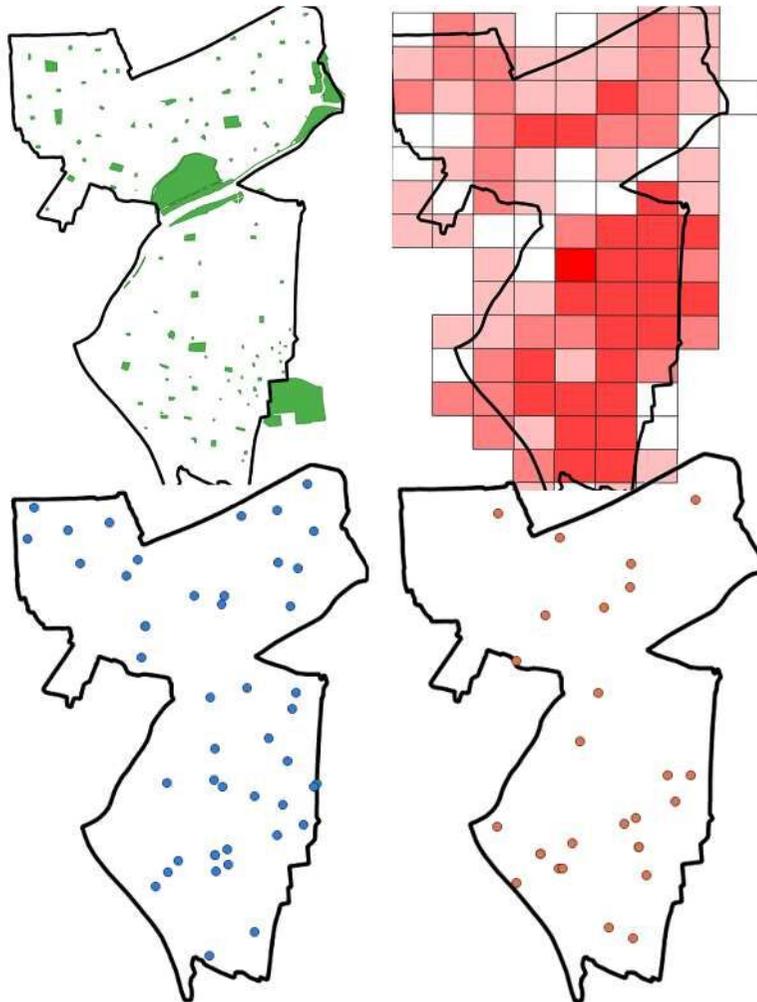
- ・ 選定の理由
 - 北部の郊外型～南部の都心型まで幅がある
 - 約100公園あり、1区の平均公園数に近い



調査研究の流れ

データ

- 都市公園データ（緑政土木局総合システム公園管理図より）
- 周辺人口
- 周辺施設 学校（幼稚園～高校）、福祉施設
- 利用実態（人流データ）



人流データ（KDDI Location Analyzer）

- データ・・・
auスマートフォンユーザー全人口推計値
- 場 所・・・
西区内の住区基幹公園98箇所
- 期 間・・・
2023年1月1日～2023年12月31日（1年間）
- 時間帯・・・7時台～19時台
- 対 象・・・
公園敷地内において、
15分以上滞在した20代以上

再整備の優先度評価の検討

「使われ活きる」公園を目指し、
潜在的な利用が多く見込まれ
（＝ポテンシャルが高く）
かつ現在の利用が少ない公園を
優先的に再整備する公園と設定



- ・ポテンシャル→周辺環境等から総合的に評価
- ・利用実態→人流データを用いて評価

再整備の優先度評価の検討

優先度設定のための評価項目検討にあたり、
評価項目(仮)を設定し、結果を検証する



名古屋市みどりの基本計画2030

みどりの多面的効果（8K）



指標検討

都市力

- 観光・景観資源として、花の名所の位置づけ
- 立地適正化計画上の公園の位置づけ
(都市機能誘導区域、居住誘導区域)



地域力

- 誘致圏内の保育施設の数、若年人口（15歳未満）
- 愛護会の活動状況（特定・一般・無）
- 医療・福祉施設との距離、老年人口（65歳以上）



持続力

- 公園内の緑被地面積・緑被率
- 防災上の位置付け
- 開園からの経過年数



↳ これらを項目ごとに段階分けし、
合計点数を算出する(100点満点で設定)

指標検討

都市力合計 最大20点

都市力

- 観光・景観資源として、花の名所の位置づけ
- 立地適正化計画上の公園の位置づけ
(都市機能誘導区域、居住誘導区域)



指標項目	評価基準	点数
花の名所の有無	無	0
	有	5
立地適正化計画	区域指定なし	0
	都市機能誘導区域	5
	居住誘導区域	10
	居住誘導区域かつ 都市機能誘導区域	15

指標検討(近隣公園以上)

地域力合計 最大50点

地域力

- 誘致圏内の保育施設の数、若年人口（15歳未満）
- 愛護会の活動状況（特定・一般・無）
- 医療・福祉施設との距離、老年人口（65歳以上）



指標項目	評価基準	点数
誘致圏内の保育施設数	無	0
	1	5
	2以上	10
誘致圏内若年層メッシュ人口	~10000	0
	10001~20000	5
	20001~	10
愛護会の活動状況	無	0
	一般会	5
	特定会	10
誘致圏内の福祉施設数	無	0
	1	5
	2以上	10
誘致圏内老年層メッシュ人口	~20000	0
	20001~30000	5
	30001~	10

指標検討(街区公園)

地域力合計 最大50点

地域力

- 誘致圏内の保育施設の数、若年人口（15歳未満）
- 愛護会の活動状況（特定・一般・無）
- 医療・福祉施設との距離、老年人口（65歳以上）



指標項目	評価基準	点数
誘致圏内の保育施設数	無	0
	1	5
	2以上	10
誘致圏内若年層メッシュ人口	~2000	0
	2001~4000	5
	4001~	10
愛護会の活動状況	無	0
	一般会	5
	特定会	10
誘致圏内の福祉施設数	無	0
	1	5
	2以上	10
誘致圏内老年層メッシュ人口	~10000	0
	10001~20000	5
	20001~	10

指標検討

持続力合計 最大30点

持続力

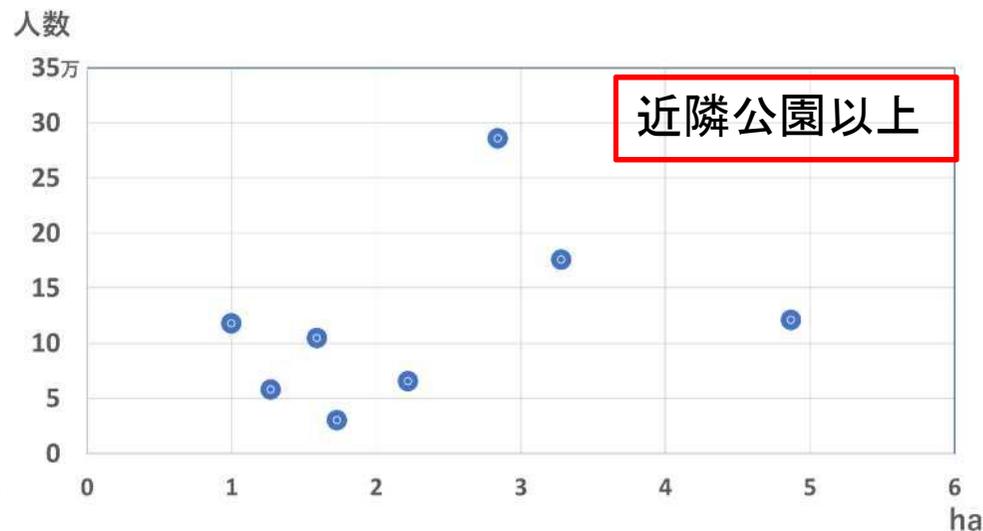
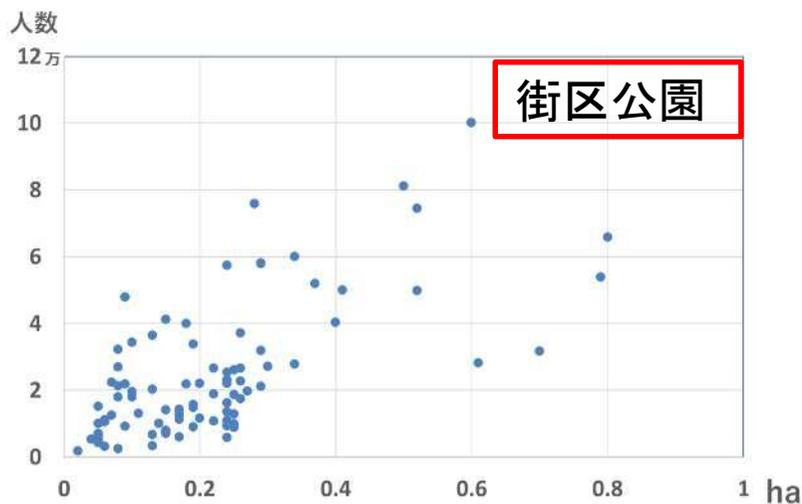
- 公園内の緑被地面積・緑被率
- 防災上の位置付け
- 開園からの経過年数



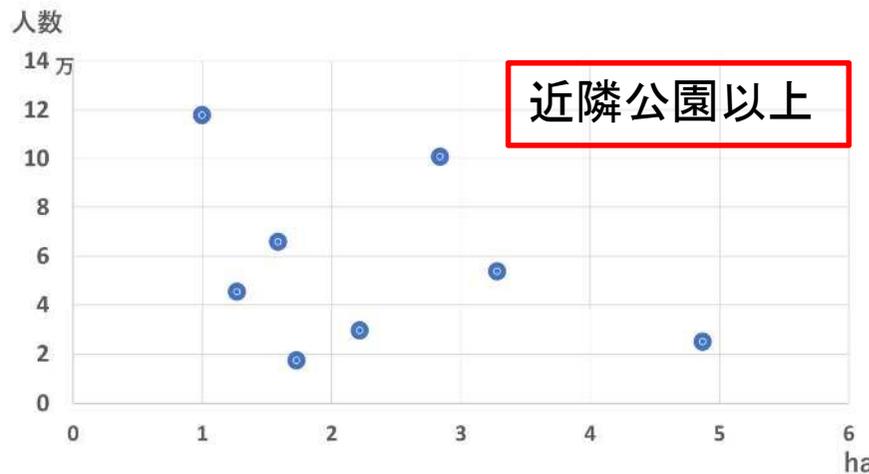
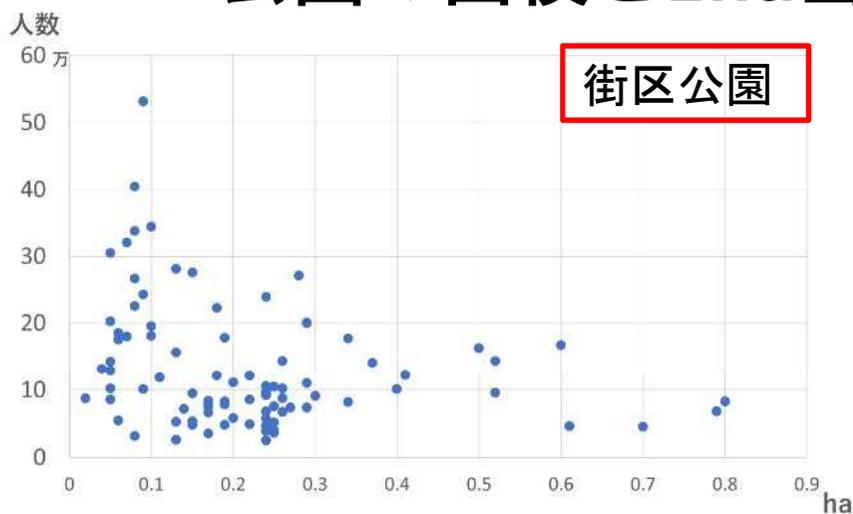
指標項目	評価基準	点数
公園内の緑被	～1000m ²	0
	1001m ² ～10000m ²	5
	10000m ² ～	10
防災上の位置付け	無	0
	一時避難場所	5
	広域避難場所	10
開園年度からの経過年数	40年未満	0
	40年以上	10

結果(人流データによる利用実態)

公園の面積と年間利用者数

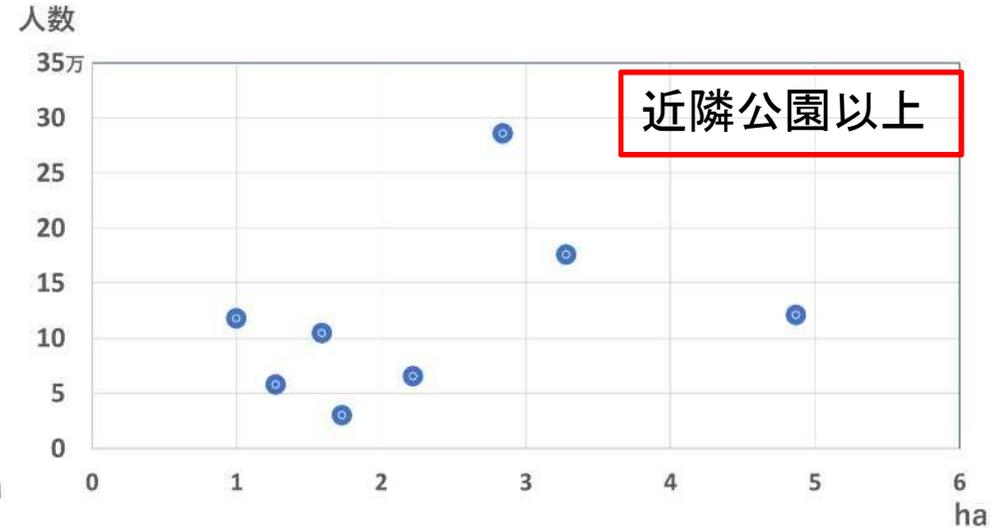
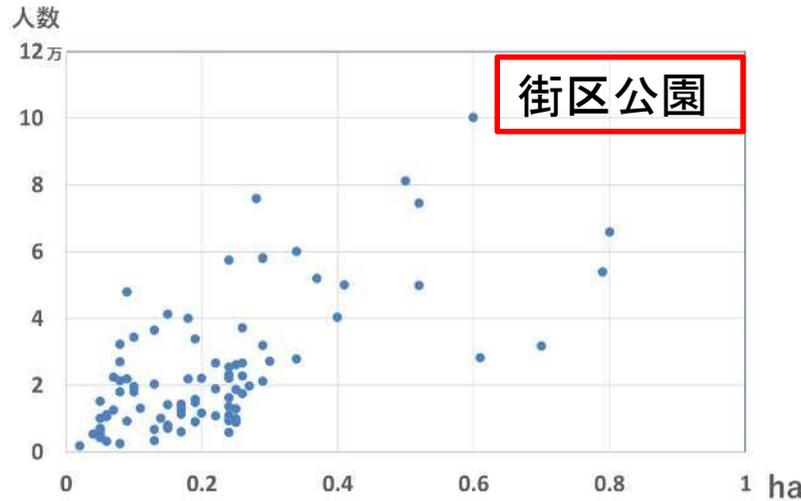


公園の面積と1ha当たりの年間利用者数



結果(人流データによる利用実態)

公園の面積と年間利用者数



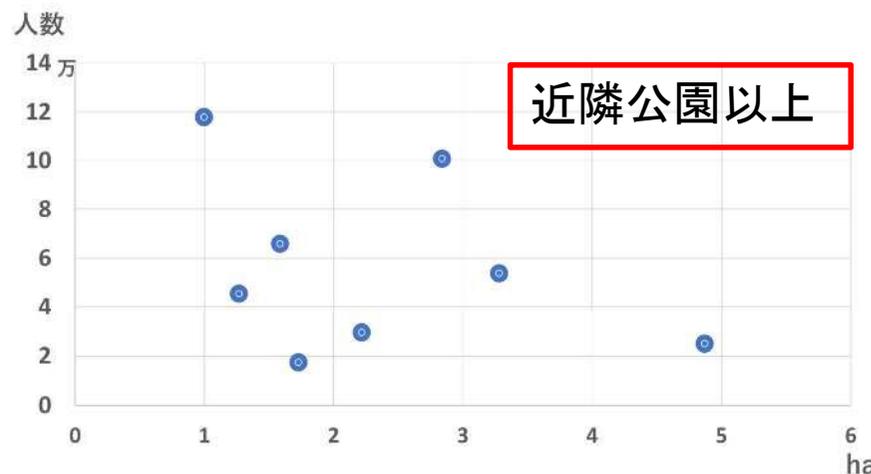
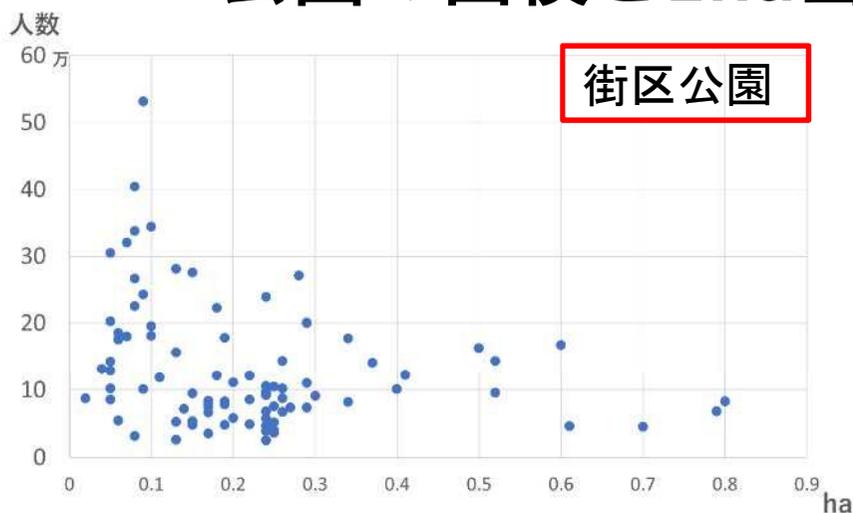
おおむね面積の広さに伴って利用者数も多くなる
傾向であるが、公園によってばらつきがある

結果(人流データによる利用実態)

全体面積の小さい公園の方が
単位面積当たりの利用者は多い傾向にある

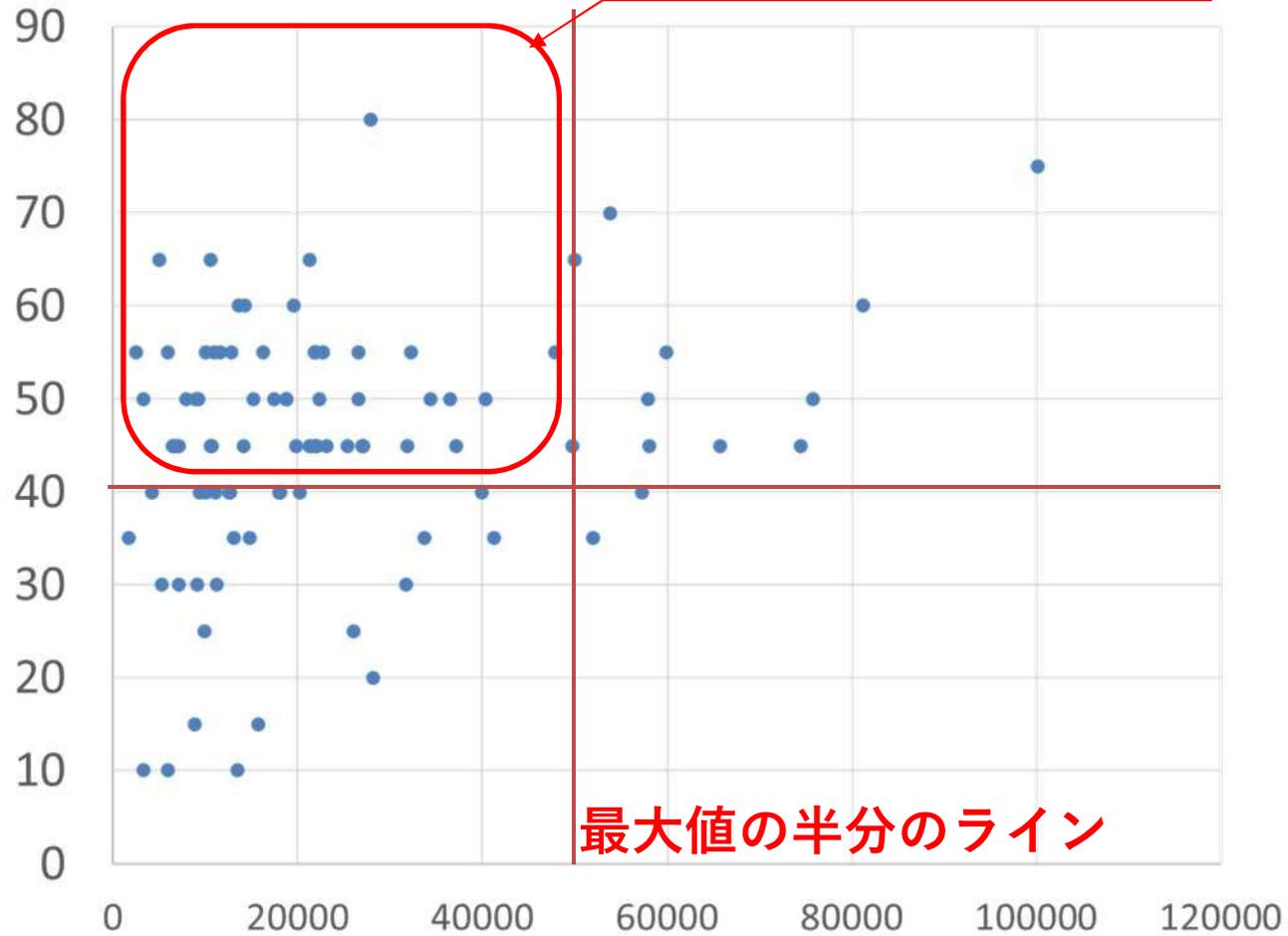


公園の面積と1ha当たりの年間利用者数



評価の結果(街区公園)

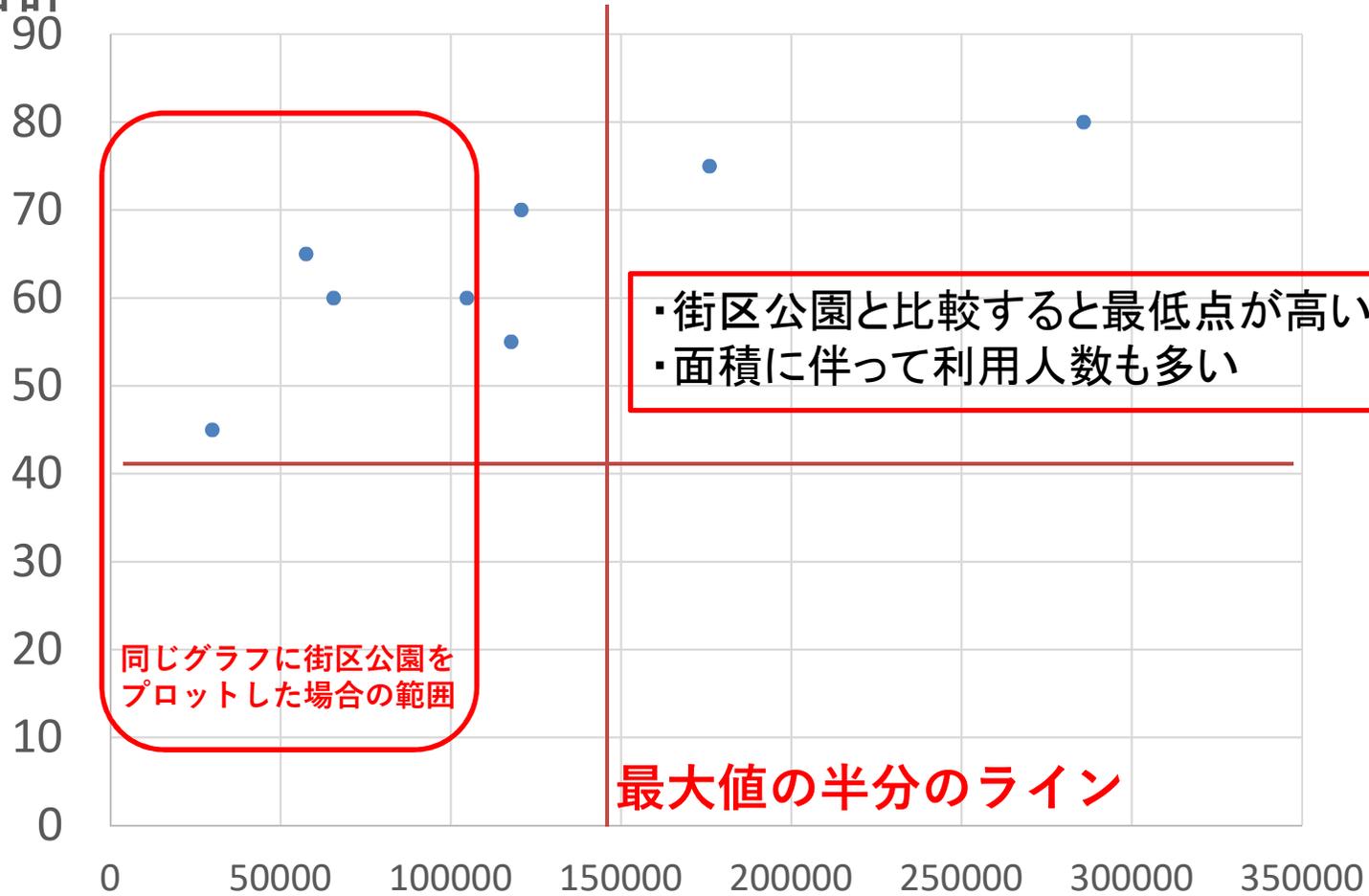
評価点合計



人数

評価の結果(近隣公園以上)

評価点合計



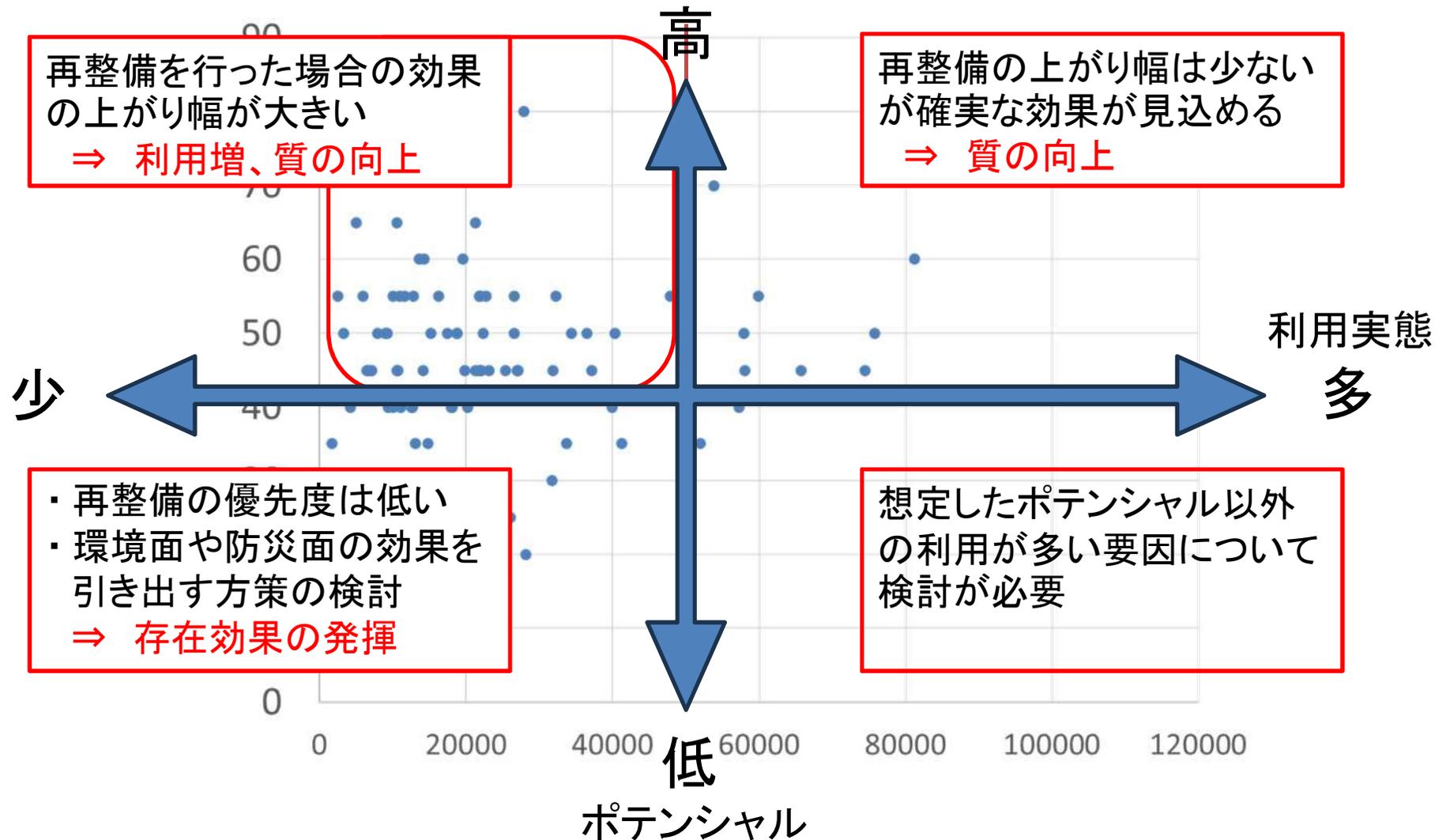
同じグラフに街区公園を
プロットした場合の範囲

・街区公園と比較すると最低点が高い
・面積に伴って利用人数も多い

最大値の半分のライン

人数

評価の結果(街区公園)



報告の内容

1 調査研究の背景・目的

2 ケーススタディ

「西区をモデルに既存データを用いた調査・分析」

(公園の位置、人口情報、立地適正化計画、保育施設、福祉施設)

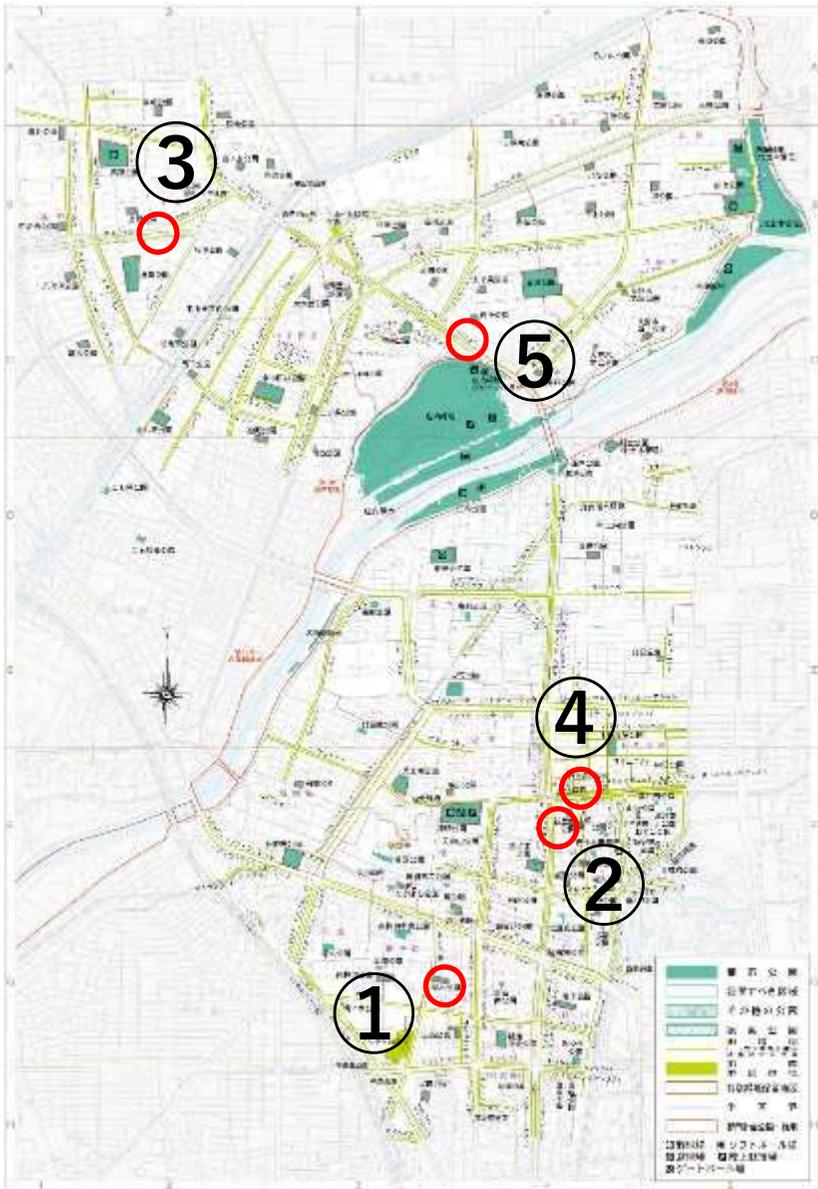
(人流データを活用した公園の利用状況の把握)

3 ヒアリング調査

(子育て拠点、保育園(園庭有・無)、学童、いきいきセンター)

4 まとめ

ヒアリング実施箇所



- ①西区子育て応援拠点S
→ 0-2歳時向けの子育て応援拠点
- ②H保育園
→ 0-5歳、浄心駅付近、園庭有
- ③F保育園
→ 0-5歳、代替園庭による基準緩和
- ④N学童保育クラブ
→ 小学生（主に低学年）、浄心駅付近
- ⑤西区北部いきいき支援センター
→ 高齢者の各種相談窓口業務を実施

ヒアリングの主な項目

- 基本属性（園児人数、保育者数、園庭の有無等）
- 公園の利用か所、頻度、滞在時間
- 遊びの内容（未満時、以上児）
- 園庭と公園の使い分け、園庭内の施設整備状況
- 子どもに人気の遊具
- 3種の神器「ブランコ・すべり台・砂場」への思い
- 公園の機能特化や簡素化への思い

ヒアリングまとめ

- 保育園や学童などでは、日常的に身近な公園が利用されており、さらに特定の公園で利用度が高い
- 都市公園だけではなく、公園に類する施設も、都市公園と同じように園外活動において利用されている
- 代替園庭として公園を利用している保育園の利用頻度は園庭を有する保育園に比べて高い
- 0 – 5歳ぐらいの子どもたちは、アスレチックやグローブジャングルのような遊具が人気。小学生ぐらいになると、友だちとボール遊びなどを楽しんでいる
- 保育をされる方々や高齢者の方々にとっては、屋根があって日差しを避けられるようなスペースの設置が望まれていることが伺えた

報告の内容

1 調査研究の背景・目的

2 ケーススタディ

「西区をモデルに既存データを用いた調査・分析」

(公園の位置、人口情報、立地適正化計画、保育施設、福祉施設)

(人流データを活用した公園の利用状況の把握)

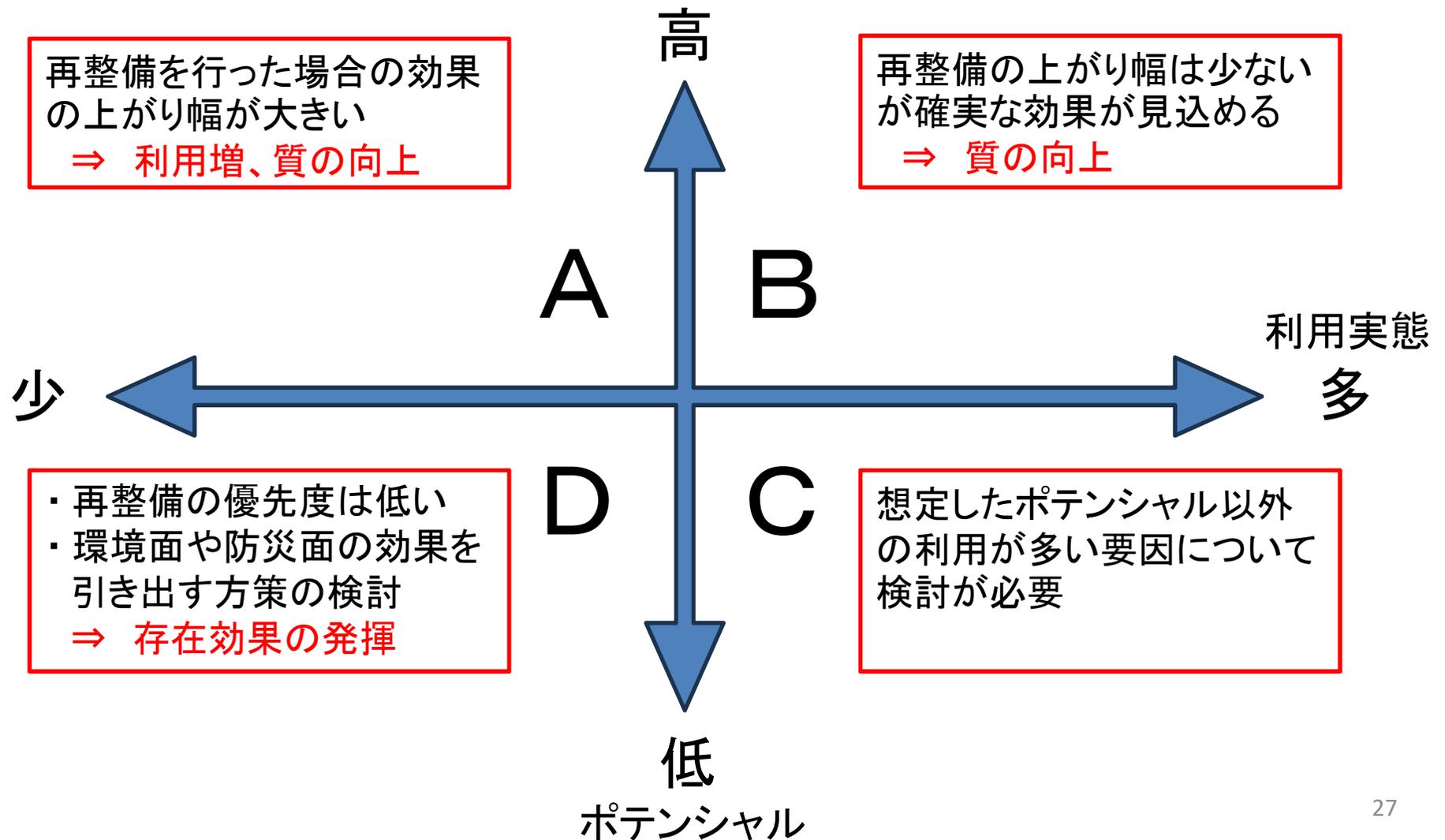
3 ヒアリング調査

(子育て拠点、保育園(園庭有・無)、学童、いきいきセンター)

4 まとめ

優先的に再生を進める公園の類型化

周辺状況からポテンシャルと利用実態の2軸で表すと



公園再生のプラン検討に向けて

- 各指標の正当性の裏付け、客観的な事例で補強
- 西区をケーススタディとしたが、市内は大きく東部、中央部、西部でも地域の性格が異なり、16区毎でも異なるので、それぞれの特長を踏まえた検討を進めていくことが必要
- 利用実態は、人流データを活用するとともにヒアリング調査も補完的に行うことが有効